

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合</p> <p>水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合も湯側圧力を水側より低くしてください。</p> <p> 強制</p> <p>給湯圧力を給水圧力より高くすると、正常な温度調節ができなくなり、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p> 強制</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>	

<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>配管接続部をテーパねじに接続しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。</p> <p> 強制</p> <p>高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>止水栓の取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p> 強制</p> <p>点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p> 強制</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開)

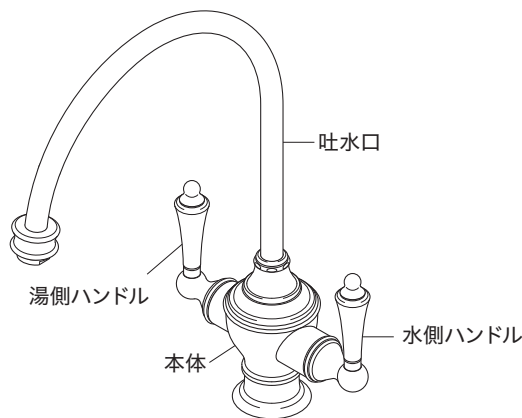
〔比例制御式〕 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C給湯をおすすめします。
- ④ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑤ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑥ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑦ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

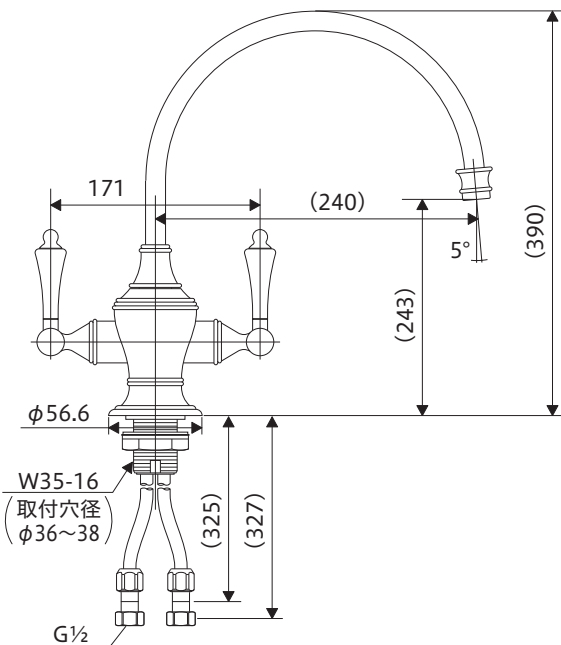
取り付け完成図と各部の名称



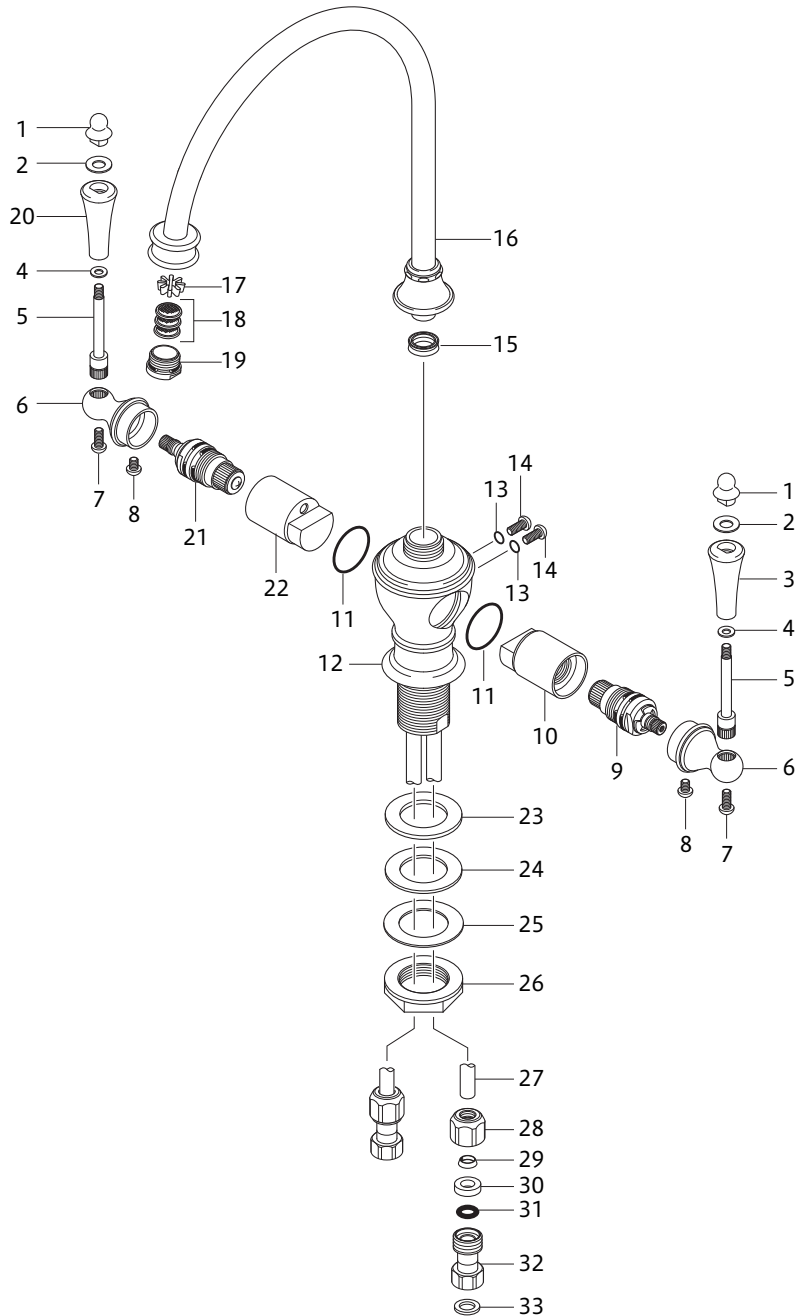
金メッキ付仕様の場合

金メッキを施して部分は傷がつきやすいため、施工時の取扱いには十分ご注意ください。

寸法図



分解図



1	ハンドルキャップ
2	スリップ板
3	ハンドル握り (C表示)
4	スリップ板
5	ハンドルジョイント
6	ハンドル
7	なべ小ねじ
8	なべ小ねじ
9	ボンネットユニット (水側)
10	シートボデーR
11	Oリング
12	本体
13	Oリング
14	トラス小ねじ
15	Xパッキン
16	吐水口
17	水切
18	ストレーナ
19	整流器キャップ
20	ハンドル握り (H表示)
21	ボンネットユニット (湯側)
22	シートボデーL
23	シートパッキン
24	輪パッキン
25	スリップ板
26	フランジ
27	銅パイプ
28	ナット
29	テーパリング
30	座金
31	Oパッキン
32	ジョイント
33	パッキン

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地仕様は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓

3 本体の固定
取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、本体をフランジで固定します。

【△注意】
締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。締め付ける際は、ハンドルや吐水口は持たないでください。これらを持って締め付けますと漏水のおそれがあります。

専用工具G11(別売)

4-1 銅パイプの配管
止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

【△注意】
・給水・給湯パイプはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・給水・給湯配管は動かないように固定してください。銅パイプが抜け、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

5 ページ

4 止水栓との接続

① ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、仮固定していたジョイントを止水栓からはずし、銅パイプを切断してください。このとき、ストレート部60mm程度(パイプの差し込み代20mm)確保してください。

【お願い】
銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

【△注意】
・銅パイプ切断および曲げ時に銅パイプストレート部には変形や傷などはないようにしてください。変形や傷などにより、漏水の原因となります。

銅パイプ曲げ箇所ストレート部確保
銅パイプ ※できるだけ長く確保してください
ストレート部 60mm程度確保
ジョイント

銅パイプの差し込み代
銅パイプ 差し込み代 20mm確保
ジョイント
カット位置の目安(V溝)

② ジョイントから図の部品をはずします。ナット、テーパリング、座金、Oパッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】
・部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプをジョイントにはめ込むと、Oパッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・部品は正しくはめ込んでください。特にテーパリング逆方向、Oパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。

銅パイプ ナット テーパーリング 座金 Oパッキン ジョイント

部品をはめ込む

逆方向にはめこまない 短い

銅パイプをはめ込まない

③ ジョイントを止水栓からはずした状態で銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】
・接続は適切な工具(200mm程度のスパナ・モンキー等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナット締め後、工具で約1回転半程度の締め付けです。)締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。
・薄肉の接続管(ニップル等)には、ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

銅パイプ ナット テーパーリング 座金 Oパッキン ジョイント

1. はめ込む

2. ずらす

3. 接続

止水栓(別売)

④ ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプとジョイントを接続します。

【△注意】
接続は適切な工具(200mm程度のスパナ・モンキー等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナットが締めきって金当たりする程度の締め付けです。)締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。

ナット スパナ等

別スパナで固定

締め付ける

6 ページ

取り付け後の点検と清掃

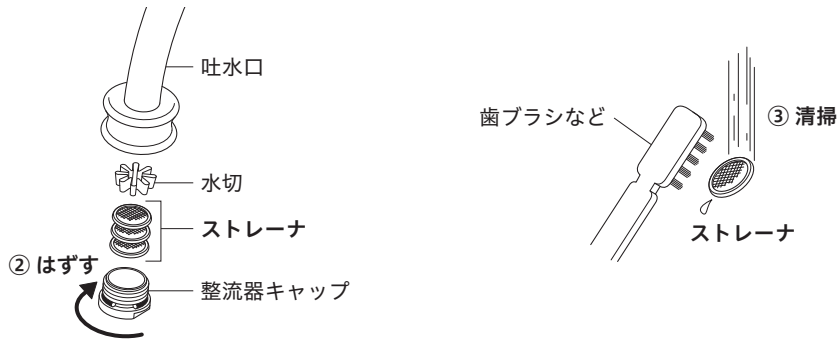
通水確認

【△注意】
水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い

吐水口のストレーナにゴミ等がたまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

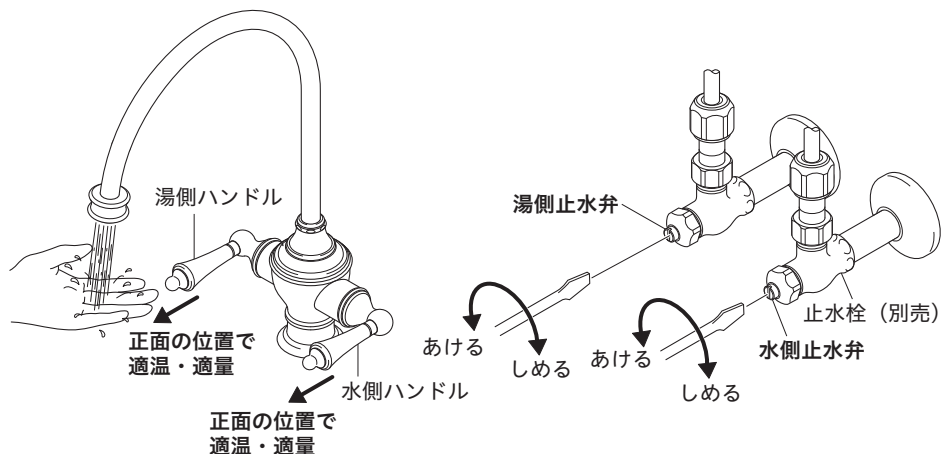
- 湯水全開で20~30秒吐水させます。
- 吐水口の整流器キャップをはずす方向にひねって、ストレーナを取りはずします。
- ストレーナをブラシで水洗いします。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

湯温・流量調節

湯と水のハンドルが正面を向いている位置で適温・適量になるように止水弁で調節します。



7 ページ

故障かなと思ったら...

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
	ストレーナにゴミ等がたまっていますか	ストレーナを清掃する	7ページ 「ストレーナ清掃のお願い」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切替式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	ストレーナは凍っていませんか	ストレーナにぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	7ページ 「湯温・流量調節」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
吐水が飛び散る	ストレーナにゴミ等がたまっていますか	ストレーナを清掃する	7ページ 「ストレーナ清掃のお願い」
	ストレーナにゴミ等がたまっていますか	ストレーナを清掃する	7ページ 「ストレーナ清掃のお願い」

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△注意】
修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ